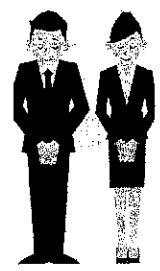


こ
だ
ま

第43号 (2021年4月)
発行 九鬼コミュニティー
センター
電話 0597-29-2164

日頃は、コミュニケーション活
動に、多大なご協力・参加を
賜り厚く御礼申し上げます。



〈お願い〉

引き続き、コロナ

ウイルス感染予防の
ため、3密(密閉・密
集・密接)を避け手
洗いと手指消毒 マ
スクを着用し換気に
注意してご利用して
いただきますようお
願い致します。

令和3年度 教室

参加者募集

①ヨガ教室

・年5回(第3火曜日)

午後1時30分

②パッチワーク教室

・年5回(第4金曜日)

午後1時30分

これまでの第4火曜日
から第4金曜日に変わ
りました。



書道教室を復活して欲し
いと言うお声を頂いてい
ます。参加希望の方は
お知らせ下さい。



九木神社の社地移転

宮の谷から国洲の森へ

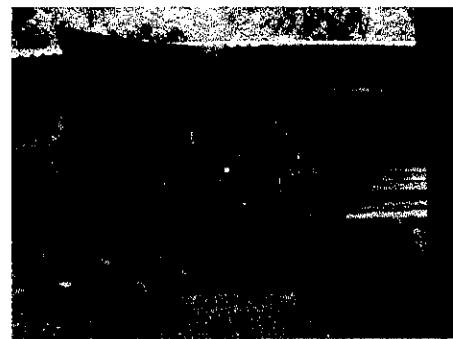
九木神社の創建は南
北朝時代、九鬼氏の祖、
藤原氏が「宮の谷」に祠
を建て五人張りの弓と
矢とを奉納したのが始
まりと言われています
江戸時代に入り、寛
文二年(1662年)神
社は宮の谷から現在の
場所である国洲(くに
す)の森に移されるこ
とになりました。
「九鬼家歴代略記」に
よれば、ある夜、南国和
尚(なんこくおしょう)
の夢に天満天神の降臨
があった、「宮の谷の
海岸に漂流して来る梅
の大樹があるから、こ
れを以てわが像を作り
国洲の森に遷座せよ、
との宣示を蒙った。
夢さめて大いに驚き且
つ恐懼し、夜の明ける

のを待って宮の谷に行
ってみると、果たして大
樹が漂着して居たので
驚き且つ喜び、拾い上げ
て自ら潔斎して力を振
い、天神の神像を謹刻し
て氏神天満宮へ奉置し
た。」とあります。
この時代、江戸と大坂
との間に海運が盛んに
なり、経済も発展しまし
た。九木の港は入海で水
深も深く、波もおだやか
で熊野灘随一の港とさ
れ、尾鷲市で唯一幕府に
指定された港でしたか
ら、千石船をはじめ大小
の船が出入りするよう
になり次第に船乗りの
信仰を集めるようにな
りました。

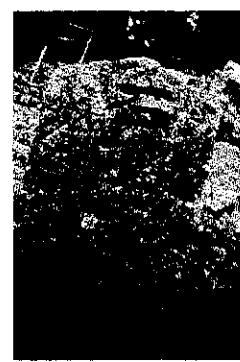
宮の谷は湾の奥にあ
り、入港した船からはわ
かりづらい場所、一方
国洲の森は入港してす
ぐ目立つ場所ですから、
参拝には便利だったこ
とも社地移転の理由の
一つだったとも考えら
れます。

二の鳥居と
神社の石段

信仰を集めるにつれ
船乗りからも寄進を受
けるようになり、社務所
前の二の鳥居は、元禄十
年(1697年)中国商
人の黄梅念五島(こう
ばいねんごとう)の寄進
によるものですし、又今
も使われている石段は
天保十四年(1843
年)尾張富田の久吉丸船
頭が寄進したものです。



【二の鳥居】



【神社の石段】